

特集

産婦人科領域における レーザー診療の最前線

企画者のことば

坂本 優*

本特集では、まず医療用レーザーの総論について特に医療安全の観点から執筆していただき、引き続いて産婦人科領域のレーザー診療に関するわが国の第一人者の9人の先生方に、産婦人科領域における各種レーザー診療の有用性や課題、ならびに新技術の開発と臨床応用について執筆していただきました。各論文とも、わが国における産婦人科領域のレーザー診療の多様性や有用性を示しており、適応拡大を目指している産婦人科領域レーザー診療の今後の展開が大いに期待されます。

光線力学的療法(PDT)に使用可能な腫瘍親和性光感受性薬剤には、ポルフィマーナトリウム(フォトフリン：早期肺癌，表在型早期胃癌，表在型食道癌，子宮頸部初期癌ならびに異形成)，タラポルフィンナトリウム(レザフィリン：早期肺癌，原発性悪性脳腫瘍，化学放射線療法後の局所遺残再発食道癌)，ベルテポルフィン(ビスダイン：加齢黄斑変性症)があります。現在，婦人科領域で保険収載されているものはフォトフリンのみですが，フォトフリン対応レーザーの販売が終了し，2017年3月末で保守点検も不可能となり，フォトフリンの供給も2020年12月末までであること，ならびに，近

年，妊孕性温存を希望する子宮頸部上皮内腫瘍の患者さんが著明な増加傾向にあることから，喫緊の課題として，レザフィリンや5-aminolevulinic acid(5ALA)などの次世代の腫瘍親和性光感受性薬剤を用いた子宮頸部上皮内腫瘍に対するPDTの早期適応拡大が切望されています。特に，子宮頸部上皮内腫瘍に対するレザフィリンを用いたPDTは，保険承認を目指して，現在も浜松医科大学や杏雲堂病院などで医師主導治験が進行中です。

また，本特集ではあまり触れられませんが，最近，注目されている光線力学的診断(PDD)に使用可能な薬剤5ALAも2種類保険承認されています。1つはアラベルで，悪性神経膠腫の腫瘍摘出術中における腫瘍組織の可視化に使用できます。もう1つはアラグリオで，経尿道的膀胱腫瘍切除術時における筋層非浸潤性膀胱癌の可視化に使用できます。婦人科領域では，PDDは子宮体癌の蛍光診断への応用が期待されています。

本企画の機会を賜りました東京慈恵会医科大学産婦人科主任教授の岡本愛光先生，ならびに「産婦人科の実際」編集委員の先生方に深謝いたします。

*Masaru Sakamoto 公益財団法人佐々木研究所附属杏雲堂病院(副院長，婦人科部長)/東京慈恵会医科大学産婦人科学講座(客員教授)